

太い枝も処理できるナイフ式の樹木粉碎機ドラコンKDC-1301B  
(山形市で)



カルイ(山形)

日本で初めて樹木粉碎機を開発したカルイが、生産者に寄り添った商品と営業で、産地の注目を集めている。果樹産地の悩みである剪定(せんでい)枝の処理を二つの粉碎方式で解決。有害鳥獣がすみ着く竹林ややぶの伐採を側面支援する。営業面では、購入希望者に実演デモ機を貸し出し、納得して買ってもらうことを徹底する。

同社は1916年、農機などのエンジンのメーカーとして愛媛県で創業した。軽量なエンジンを開発したことから、社名を「カルイ」とした。39年には山形県に本社を移した。大量に出る剪定枝の処分に困る生産者を移転先で見つめ、少しでも楽にしたいと、40年ほど前に樹木粉碎機を開発した。同社の粉碎機には、木を

剪定枝処理を楽に 鳥獣害も対策にも

一般的で、商品の普及は進まなかった。転機は97年の京都議定書の採択。高橋社長は「一野焼きができなくなり、販売数が伸びてきた。今では、剪定枝の処理だけでなく、バイオマス発電やパレットや木枠梱包(こんぼう)材も処理できる。ナイフ式では「ドラコンKDC-1301B」が一番の売れ筋だ。高橋和成社長は「機械は小型でも、太い枝を粉碎できると好評」と話す。製品は直径13・5センチまでの枝を処理できる。処理量は1時間当たり最大800キロで、軽トラック1・5台分に相当する。ハンマー式とナイフ式の複合機も商品化した。

販売を始めた当初は、自然農法に関心を持つ生産者が購入し、粉碎した枝を堆肥にしていた。当時は、園地で燃やして処理するのが一般的で、商品の普及は進まなかった。転機は97年の京都議定書の採択。高橋社長は「一野焼きができなくなり、販売数が伸びてきた。今では、剪定枝の処理だけでなく、バイオマス発電やパレットや木枠梱包(こんぼう)材も処理できる。ナイフ式では「ドラコンKDC-1301B」が一番の売れ筋だ。高橋和成社長は「機械は小型でも、太い枝を粉碎できると好評」と話す。製品は直径13・5センチまでの枝を処理できる。処理量は1時間当たり最大800キロで、軽トラック1・5台分に相当する。ハンマー式とナイフ式の複合機も商品化した。

現在はいかにかきつ産地や造園業で販売台数が多い。今後は地元を中心に、東北地方で地域密着型の営業に力を入れている考えだ。

- 会社概要＝1916年創業。日本で初めて樹木粉碎機を開発。樹木粉碎機と農業用ポンプの製造・販売を手掛ける。
- 所在地＝〒990-2351 山形市鑄物町46の1、電023(645)5710。

会社フォーカス

3品種でリレー栽培  
タキイ種苗

秋取りと春取りに向けた「福兵衛」は、低温伸長性、暖かい時期でも軸が長く

話題の商品

化した。キャブレターは電子制御で、高地作業でも調整不要。バッテリーを入れるとすぐ